

5. 2015シーズンを振り返って

2015年シーズンを終えて

監督 山 神 孝 志 (H2年卒)



監督3年目は、学生の変化から始まりました。例年通り幹部と大学選手権の準決勝を観戦し、秩父宮で2015年度の主将に才田、副将に林を指名し、一か月後に行うスタートミーティングへの準備を始めました。

練習は1月の2週目からウエイトトレーニングとユニット練習を中心に開始し、試験期間中は各自の試験予定に応じ練習参加は個人に任せますが、休む学生は殆どいません。この期間に個人面談を行い、個人へのフィードバックや一部の学生にスタッフへの転身を打診しますが、数人の学生から「スタッフ転身」の決断と面談希望が有りました。

スタートミーティングは、チーム方針を伝え、グループミーティングを行いスローガン決定や、スタッフ転身への決心がつかない学生に再度面談するというのが、これまでの2年間でしたが、才田主将からは「覚悟」のスローガンが発表になり、決意表明とともにドキュメントが配布され、表紙にそれぞれの覚悟を書くという事を求めています。

48名の最多学年は、同期がまとまるために私の知らないところで、チームの芯となるスローガン検討ミーティングを重ね、リーダー達が同級生にスタッフ転身の依頼と説得を繰り返し、ファーストミーティングに臨んだのです。これは3年間、関西でさえ勝ちきれない危機感と、4年生から勝つ覚悟を示す行動の表れで、最終的には1名が退部、残り47名で公式戦に先発したのはのべ6人（出場はのべ9人）でした。

関西Aリーグ・ジュニアリーグ優勝、定期戦は明治に逆転負けしましたが、久しぶりに早稲田・慶應2校に勝利し、年間を通じ69勝12敗という高い勝率をチーム全体で上げたのは、あらゆるところに4年生の頑張りが有ったからです。

「4年生の頑張りがチームに力を与える。」、この事は初戦を落とした後も「何とかなる。」という気持ちにさせてくれましたし、そこでダメになるような練習では無いと信じておりましたので、その後負けなかった事実はチームが成長を続けた証と思います。

一方で全国を勝ちきるには、日本一を更に意識する必要が有り、正月を越すという現実的な目標も必要ですが、心・技・体において、突き抜ける強さを作り上げる事を痛感したシーズンにもなりました。努力しているのは我々だけでは無く、どのチームも専門スタッフをフルタイムで置き、強化に時間と力と資金を注いでおり、学校も巻き込んだ一層の組織力向上が必要です。

才田組を誇らしく思うのは、学生が自主的に色々な苦労や思いをシェアし、グラウンドではボールボーイをスタンドでは、応援リーダーを4年生が担い、共に戦い結果を出した姿に同志社のDNA継承を見たのは、私だけでは無いということです。

最後になりますが、保護者・学校関係者・OB・OGの皆様には、これまでのご支援に対しお礼申し上げますとともに、引き続きのご指導ご支援をお願い申し上げ、シーズン終了のご挨拶とさせていただきます。

2015シーズンを振り返って

FWコーチ 堂 守 剛 史 (H13年卒)



まず初めに、今シーズン、ご支援、ご声援いただきましたOB会の皆様、ファンクラブの皆様、ご父兄の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

そして、才田キャプテンはじめ4回生のみんな、本当にお疲れ様でした。4年間、一緒に素晴らしい時間を共有し、成長してこられたことを誇りに思います。

今年の4回生は、新チームがスタートする際に、選手の立場から、チームを支える立場に変わる決断をしてくれた学生がいた学年でした。この決断は決して簡単に出来る決断ではなかったと思います。私は、この決断にこの学年の今年に対する「覚悟」を強く感じました。このような4回生がいてくれたチームだったからこそ、今年のチームは非常にまとまりのあるいいチームになれたと思います。春には15年振りに早稲田大学に勝ち、秋には8年振りに関西リーグを制覇出来たのも、この4回生の「覚悟」があったからだと思います。大学選手権ではセカンドステージ最終戦で大東文化大学に2点差で敗れ、ベスト4進出、日本一という目標を実現する事は出来ませんでした。今年の4回生が同志社大学ラグビー部の歴史に新しい1ページを刻んだ事は間違いないと思います。

4回生のみんな、本当にお疲れ様でした。

3回生以下は、最後に大東文化大学に2点差で逆転負けた悔しさを決して忘れず、1日1日を大切に充実した時間を過ごし、日々、成長していきましょう。

2015年シーズンを振り返って

BKコーチ 飛 野 達 (H19年卒)



平素は多数の皆様から多大なるご声援・ご支援を賜わりまして、心より御礼申し上げます。

皆様からの多大なるご声援をいただきました結果、学生たちならびにコーチングスタッフもゲームに集中して望むことができました。

2015年度シーズンは、ここ数年間のウエイトトレーニングの成果が顕著に現れ、チーム力は昨シーズンに比べ確実に高まったと思います。「覚悟」というスローガンのもと、学生たちもハードなトレーニングを行うようになり、その結果が8年ぶりの関西リーグ優勝という結果につながったと感じています。振り返れば、夏合宿は朝5:30からの3部練習や、シーズン中もハードなフィットネストレーニングを繰り返してきました。平日は学生コーチが主体となり、自らを追い込んでまいりました。

関西リーグ初戦のよもやの敗戦からチームを建て直し、才田主将を中心に最後にひとつにまとまった4回生全員の力が非常に心強かったことを感じております。

学生たちのひたむきな努力のおかげで、8年ぶりの関西リーグ優勝を果たしました。特に関西リーグ優勝を賭けた天理戦でのタックルには、関東勢にも通用する片鱗を感じました。

しかし、大学選手権では筑波大学、大東文化大学の前に屈し、結果的には1勝2敗という結果となりました。背中に見えた関東勢を捕らえきることができなかったことを非常に悔しく感じております。それでも打倒関東勢へ向けて、一筋の光を導いてくれた2015年度シーズンは非常に価値のあるシーズンだったと思います。

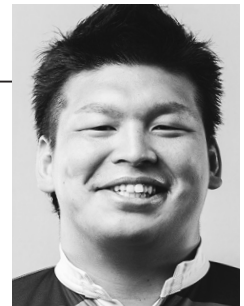
しかしながら、同志社大学ラグビー部の目標は関西制覇ではとどまらず、もっと高い位置にあります。既に新4回生を中心に新シーズンへ向けて練習をスタートしています。2015年度シーズンの4回生が残してくれた自信と、あと1歩届かなかった悔しさを忘れることなく、全力で取り組んでいてもらいたいと思います。

四回生のみんな、お疲れ様でした。トップレベルでラグビーを続けるみんなは、これからも同志社のプライドを忘れずに頑張ってください。応援しています。ラグビーを大学で一区切りつけ、来年度からは社会人として戦っていくみんなは、理不尽なこともあると思いますが、辛くなったら田辺や北見で走ったフィットネスを思い出してください。きっと大丈夫でしょう。

最後になりますが、今シーズンご支援いただきましたOBの皆様、ファンクラブの皆様、ご父兄の皆様、本当にありがとうございました。これからも引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

今シーズンを振り返って

前主将 才 田 智（4回生・東福岡）



今年度、主将を務めさせて頂いた才田です。

2015年、12月27日、同志社大学ラグビー部の105回目のシーズンが終わってしまい、正月を越すことが出来ませんでした。これまでたくさんの応援とそしてたくさんの御支援ありがとうございました。そして、目標であった正月を越し「日本一」という目標を達成する事が出来ず申し訳ない気持ちでいっぱいです。

今年は「覚悟」というスローガンのもと、関東の壁を越え正月にラグビー部の仲間達と共に過ごすために日々練習に取り組んできました。「覚悟」というスローガンには、どんなに苦しい練習や困難などにも逃げずこの一年間、「覚悟」を持ってやり通すという意味を込めて決めました。振り返ると、今シーズンは主将として、様々な苦しい場面と直面することがありました。私の力不足で心が折れそうな時もありました。しかし、そんな時はいつもラグビー部の仲間達が助けてくれてやり通すことが出来ました。

私は、同志社に来て良かったと思っています。古豪を復活させ、関西から関東を倒すという目標を持って入学し、関東を追い掛け続けました。最後は3点という僅かな得点をあげることは出来ませんでした。同志社大学ラグビー部は、間違いなく関東の大学に近付いていると確信しています。

15年ぶりの早稲田大学に勝利、8年ぶりの関西制覇、このような同志社大学ラグビー部の歴史を変えることが出来たのもファンクラブの方々、OB、OG、そして、同志社大学ラグビー部に関わっている全ての人達のお陰です。最後の大東文化大学戦も7000人を超える人達に応援して貰い、間違いなく会場は紺グレに染まっていました。後輩達には、来年こそ正月を越し「日本一」になってくれることを願っています。今まで本当にありがとうございました。そして、今後とも同志社大学ラグビー部の応援よろしくお願い致します。

今シーズンを振り返って

前副将 林 真太郎（4回生・同志社香里）



日頃より応援していただきありがとうございます。私たちは2015年12月27日の大東文化戦にて引退することとなりました。大学ラグビーを振り返るとかけがえない仲間と走り抜けた4年間であったと感じております。また満足のいく結果では終われず、後輩たちに託す部分が多くなってしまい、後悔がないかと言われればそうではありませんが、やりきったと今は言えます。またこのような気持ちになれているのもラグビー部の仲間、また監督、コーチの皆様、OBの皆様、ファンの皆様のご指導ご鞭撻のおかげであります。本当にありがとうございました。これからはこの4年間を糧に社会人でも精進していきますのでこれからも宜しくお願ひ致します。

今シーズンを振り返って

前FWリーダー 東 大樹（4回生・同志社香里）



シーズンを通し、たくさんのご支援ご声援いただき誠にありがとうございました。

3年間先輩方の流す涙を見て、今年こそは関西リーグ優勝し、選手権に出場し日本一となるよう1年を過ごしました。キャプテンを筆頭にチーム全員が一丸となることで、春シーズンは良い結果を残すことができました。しかし、本シーズンでは関西リーグは制すことができたものの、選手権では昨シーズンと同じ結果となってしまいました。

一方で、今シーズンは例年に比べ勝っているものがありました。それは進藤を中心に走り回って活動していた広報、今津を先頭にスタジアム中に響き渡っていた応援です。苦しい展開の中でも勝つことができたのは、4回生をはじめチーム全員のおかげであったと強く感じています。後輩たちは大変な事が多々あると思いますが、来年こそ正月を越えられるよう頑張ってください。陰ながら応援しています。4年間本当にありがとうございました。

今シーズンを振り返って

前FWリーダー 津野森 晃 平（4回生・同志社）



部員になれたことを誇りに思います。ラグビー部員として、過ごしたこの4年間は私の人生においてとても濃い期間となりました。4年間を振り返ると試合に負けたり、永遠とグラウンドを走ったりなど辛い思い出もたくさんありますが、一緒に4年間を過ごした一生の仲間ができたり、関西リーグを優勝することができたりと良い思い出もその倍以上あるように思います。その一つ一つが私を大きく成長させてくれました。これから社会人に

なりますが、同志社大学ラグビー部で学んだこと、経験したことを活かして頑張りたいと思います。後輩達、今年成し遂げられなかった、全国ベスト4、そして日本一に必ずなってください。自分たちがやってきたことを信じてやれば絶対に叶えられると思います。そしてなにより、ラグビーを楽しんでください。最後になりましたがOBの皆さま、同志社大学ラグビー部ファンの皆さま、熱い応援ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

今シーズンを振り返って

前BKリーダー 岩村 昂太 (4回生・東福岡)

本当にあっという間に終わってしまったって言うのが正直な感想です。今年、関西優勝、Best 4進出、日本一という目標を掲げたぞんだシーズンでしたが、1つしか目標を達成することができなく、すごく悔しいです。しかし、同志社ラグビー部は年々間違いなく成長していると思います。来年のキャプテンを中心に更に努力を重ね、私達が達成できなかったBest 4進出、日本一という目標を必ず達成してほしいです。



今シーズンを振り返って

前主務 中村 大樹 (4回生・同志社香里)

同志社大学体育会ラグビー部第105代目の主務を務めさせていただきました中村大樹と申します。まず初めにOB・OGの皆様、ファンクラブの皆様、ご父兄の皆様、いつも私達現役に多大なご支援並びにご声援を賜り、誠にありがとうございます。昨年主務として携わらせていただき、改めて支えの偉大さを実感致しました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

昨年は「覚悟」というスローガンのもと関西優勝、ベスト4、日本一に向け部員一丸となってチャレンジしました。8年ぶりに関西優勝を達成し、大学選手権に挑みましたがベスト4目前でシーズン終了を迎えることとなりました。今はただ悔しい思いと寂しい思いでいっぱいです。この思いは後輩達に託し、来年こそは必ず正月を越えて日本一の座を掴み取ってほしいと思います。

私はこれから一OBとなりますが、同志社大学ラグビー部の一員であるという誇りを胸に、社会という新しいステージでも挑戦し続けたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

